オーディオ実験室収載

アナログアキュライザーの展開(2)
－音源比較(2)－

１．始めに

前報(1)に引き続いて、アナログアキュライザーの効果を受けつつ、フォーマット違いの各種音源を切り替えて比較試聴していきます。

２．アナログアキュライザーの適用と試聴方法

アナログアキュライザーの活用(19)からアナログアキュライザーの活用(21)までの検討結果を要約すると次のようになります。

アナログ音源再生時の適用

　ステップアップトランス Stage1030 の入力端子

　フォノイコ Brooklyn DAC+の出力端子

fidata 収納および TIDAL における MQA 音源のストリーミング再生時の適用

　DA コンバーターBrooklyn DAC+の出力端子

その他のディジタル音源再生時の適用

　DA-3000 の入力端子（Ex-Pro の出力後）

　DA コンバーターBrooklyn DAC+の出力端子

今回も上記のルートでブルックナーの交響曲 6 番を聴いていきます。

アナログ

LONDON K2BC-59 ショルティ指揮シカゴシンフォニーオーケストラ

SACD/CD

RCO LIVE　RCO-14005 ヤンソンス指揮コンセルトヘボウ管弦楽団

BPODCH

　2019 年 2 月 1 日収録　ヤノスキ指揮ベルリンフィル

2018 年 1 月 27 日収録　ヤンソンス指揮ベルリンフィル

2013 年 1 月 18 日収録　シャイ―指揮ベルリンフィル

2010 年 6 月 4 日収録　ブロクシュテット指揮ベルリンフィル

３．アナログアキュライザーの試聴結果

アナログのショルティ盤は､厚みと深みのあるブルックナーの交響曲６番をショルティ一流の豪壮な解釈で演奏してしているのが、アナログアキュライザーの効果でよく分かります。

SACD/CD のヤンソンス盤の CD 層では、これまでになく滑らかな音になっており、SACD 層では、さらに滑らかで緻密な音になっておりて、地味ですが、厚みと深みのあるブルックナーの交響曲６番を魅力的なものにしてくれています。

BPODCH の４つの演奏では、いずれも手練れの指揮者であり、ベルリンフィル大ホールにおける、ピアニッシモの細かい音から、低弦の勇壮な総奏まで、正確に聴かせてくれますので、ブルックナーらしい厚みのある表現が活かされています。

４．まとめ

ブルックナーの交響曲６番について、アナログアキュライザーの効果を取り入れた、メディアや再生経路違いの音質や演奏の比較が容易にできるようになりました。

以上